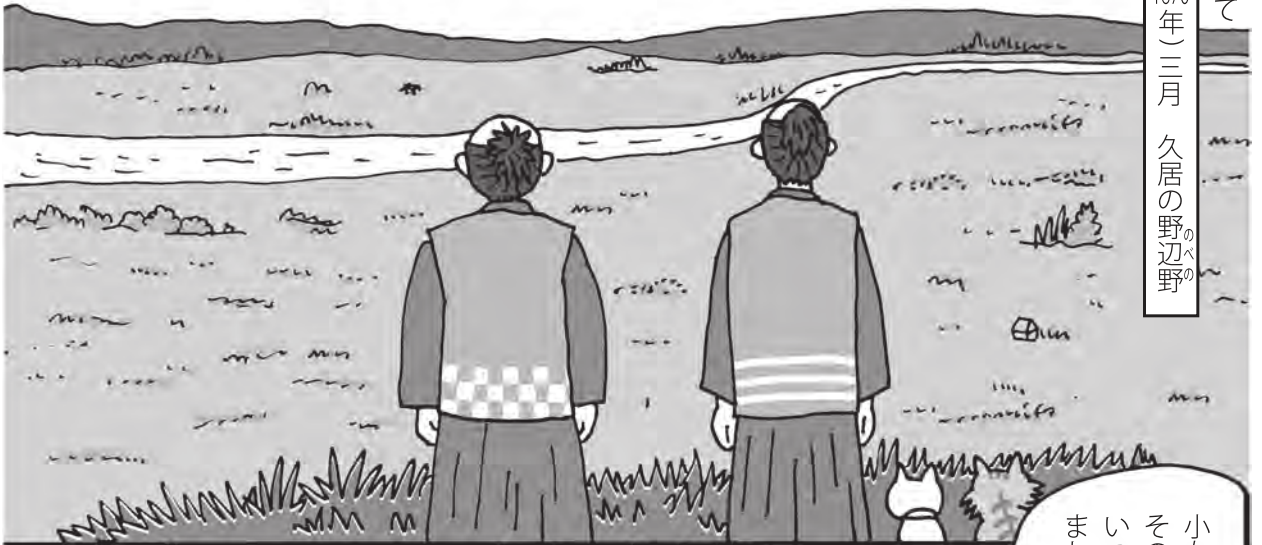


場所は変わって

寛文十年（1670年）三月 久居の野の辺



小左衛門よ、その猫は、いつもお前のまわりにいるな。

筆頭家老 藤堂源助

そうなのです。

江戸からの道中で気付いたのですが、実は殿と奥方様のお気に入りのお猫達なので、捨てる訳にもいかず。

重宝



今では情も湧いてきましたが、ははは。それよりも、この地に町を造るのでしょうか。

本家からあまり離れていない平らな高台というと、高茶屋の小森山も候補には挙がったが、やはりこの景色が殿には気に入っていただけなのではないかと。

くもすかち 雲出川が よう見えます。なるほど、良い景色じゃ。

殿も一句詠まれるでしょうなあ

殿は歌が好きなのか？





はい。特に俳句が
お得意で、
任口、
という
号を
お持ち
です。

それで
あったか。

これだけの
高台であれば、
御殿はまるで
天然の要害。

うむ。それと、
この麓を流れる
雲出井。
先代高次公の
命で造られた
この用水の
お陰で、
田畑も
潤っておる。

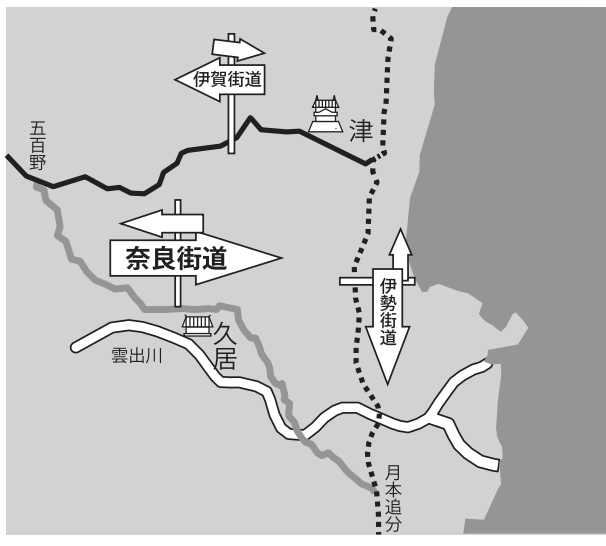
しかも
この辺りは京、
大坂から
伊勢へつながる
奈良街道も
通っておるから、
宿や店も賑わう
ことだろう。

先日
急いで江戸に
概略図を持って
行かせましたが、
殿は
気に入られる
でしょうか。

コラム4
奈良街道

美里町五百野で「伊賀街道」から分かれて月本追分（松坂市）で「伊勢街道」に合流する区間は、古くから「伊賀越え奈良道」、

「奈良道」と呼ばれ、のちに「奈良街道」と呼ばれました。この街道は京都・大阪方面から伊勢神宮をめざす人々が往来し、文政13(1830)年のおかけ参りの際は、10万人余りの旅人が城下を往来したと言われています。



※号…創作活動に本名とは別に使用する名称。ペンネーム。



江戸より
書状が
届きました。



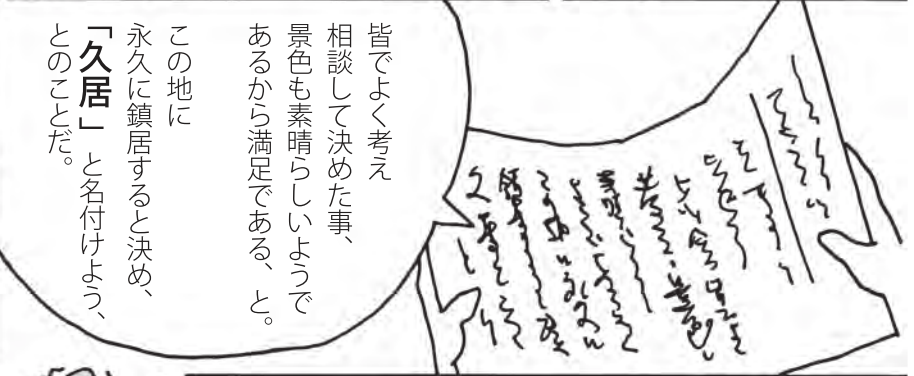
殿からじゃ。
ふむふむ、
おおつ。

殿はなんと。



「久居ひさゑ」ですか。
良い名ですね。

ではさつそく
植木升安の指示で
工事に着手いたします。



皆でよく考え
相談して決めた事、
景色も素晴らしいようであ
るから満足である、と。
この地に
永久に鎮居すると決め、
「久居」と名付けよう
とのことだ。



感動…



久居の名前が
生まれた！
またまた
すごい場面に
立ち会っ
ちゃった！
やっぱり
この人に
ついてきて
よかったわあ。



でもさおばあちゃん、
何にもない所やん？
ホントに久居？

野辺野の地といつて、
見渡す限り広い原野
だったんよ。

こゝは、現代でいうと
久居中学校か、
高通児童公園辺りかな。

へっ？
そうなん？
私の行ってる
学校やん！



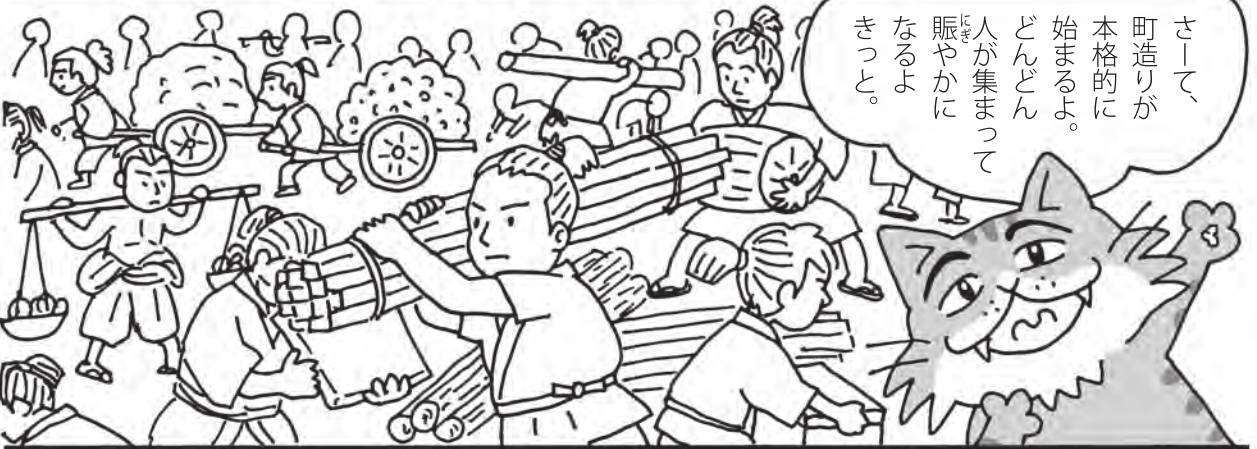
向こうの方に見える村に八幡神社があるんだけど、この後、城下町が造られる時に引っ越しするんよ。現代の久居八幡宮だわね。

何で引っ越しの？



八幡さんは武士の守り神だからね。昔はお城から見て鬼門、つまり北東の方角にお寺や神社を建てたんよ。

おばあちゃん、スゴいじゃん。何でも知ってるやん。



さーて、町造りが本格的に始まるよ。どんどん人が集まって賑やかになるよ。きつと。



すっごい。

どれくらいの人か来るのかな。

確か延べ4万3千4百人位の人々が働いて、この何にもない原野を切り拓くんよ。本家からも沢山の応援が来てくれたんよ。

わくわくするう！

ハッ

さすがお兄さん。頼りになるう！

おばあちゃん、勝手に一人で動かんといena。



西野小左衛門が植木升安を呼び出した



植木殿、町の設計図の事だが…



先ほど
本家から使いが来て、
どつやら書き直して
なってしまうらしいのだ。

植木升安

幕府からの指示
でしょうか。

あれは私の力作の
城下町構想だったんですが、
あまりに欲張り過ぎましたか。



そのようだな。
大名の築城は
幕府にとつては
一大事だからな。
確か、堀は
武家屋敷全体を
取り囲む総構え
だったな。

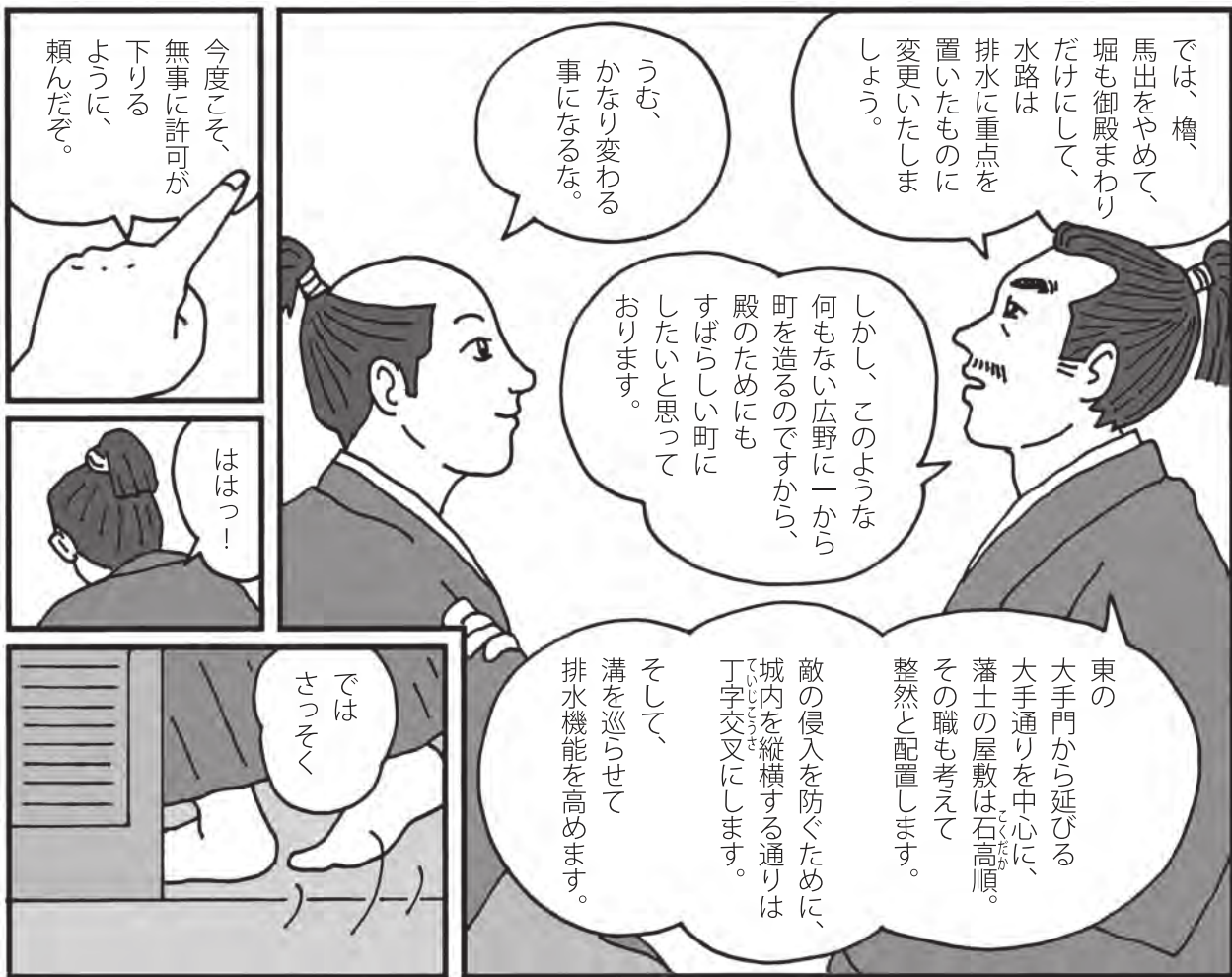
他にも、
櫓※やくらやら馬出※うまたしやら、
太平の世に
そのような防備は
不要だと。

仕方ありませんね。
謀反むほんの疑いを
かけられても
いけませんから。

そつだとも。
すまんが
早急に
書き直して
欲しい。

※櫓…城郭内に防御や監視のために建てられた建築物。武器庫としても使われた。

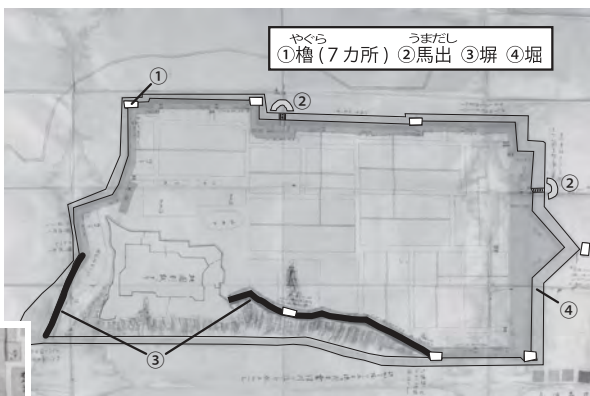
※馬出…防御力を高める目的で城門外に土塁や石垣などをつくっている小さな空間。



コラム5

幻の久居城

城下町を建設するための最初の設計図は、軍事色が濃かったため幕府の許可が下りませんでした。津市久居ふるさと文学館には、書き直しの過程とみられる設計図（写真「久居外構要害図」）が所蔵されており、植木升安による当初の城下町構想を垣間見ることができます。



↑ 当初の設計
（津市久居ふるさと文学館所蔵「久居外構要害図」より）

①、②、③がなくなり、④は堀ではなく、細い水路に変更となりました。



← 完成後の城下町
（個人蔵「久居城下図」より）

そして

二ヶ月後



植木殿、
城下町の
設計図の
許可が
下りたぞ。

そうですね。
やれやれ。
書き直しのお陰で
遅れてしまいましたが
これでやっと
工事に着手できますな。

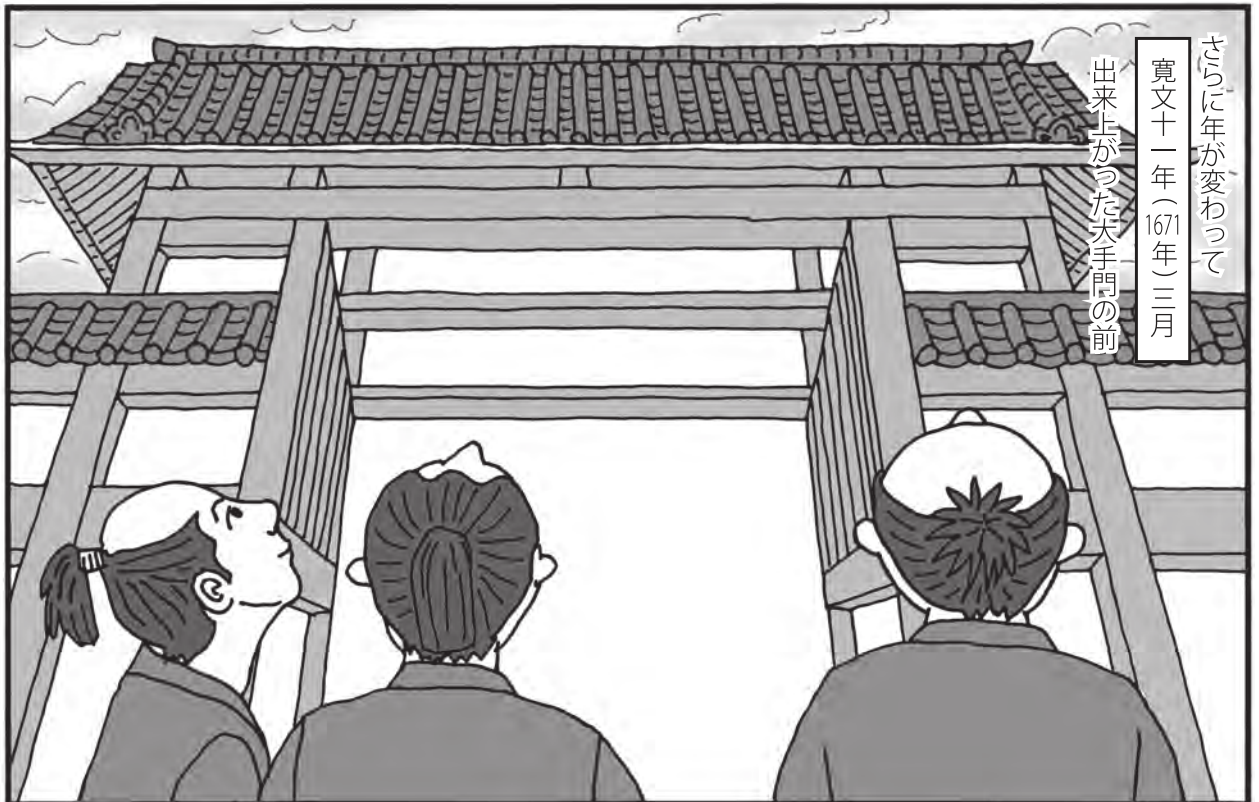
はい！

早速取り
掛かって
くれ。



長過ぎやん？
書き直した図面を
江戸に持ってって
返事も江戸から
使いの人が持って
来るんやもんね。
あたしたちなら
メールで
さっと送る
だけやんね。

大変やねえ、
けど、
やっと御殿が
建つんやね〜



さらに年が変わって
寛文十一年(1671年)三月
出来上がった大手門の前



ほまー
この門の立派な佇まいといったらぶっじや。五万石にふさわしいのう。

はい。
※間口六間、奥行三間、軒高は二間を超えます。

この久居に引つ越せば、土地は無償、菜園も与えるという優遇措置を取っておりますので、ほどなく二ノ町あたりまで広がるでしょう。

御殿も侍屋敷ももうじき完成じや。町方はどうなっております。

うむ。ここは街道筋ゆえ、上方からの人や荷が往来する。宿屋や商人が放っておくまい。殿が入城される頃にはもっと町家が並んでおろうぞ。



そっいえば、あの時そんな事言っとったね。そっや思い出した。

元の世界に戻って、ハンバーグを食べたいよー！

この大手門は未来のハンバーグ屋さんの辺りやに。



入城はいつ頃になるでしょうか。

この調子だと、夏の初めくらいだろう。

殿がついにこの地をご覧になりますね。

そっじや。わしら同様、殿も待ち遠しく思っております事だろう。

※間口六間…10.9m 奥行三間…5.5m 軒高二間…3.8m